

II. 教育

2. 教育委員会

委員長 志 水 秀 行

1. 教育セミナー（旧：卒後教育セミナー）について

令和3年度より、卒後教育セミナーから教育セミナーに名称が変更され、eラーニングとして配信することとし、令和7年度中に新しいコンテンツを配信できるように準備中である。

教育セミナーは、本学会外科専門医制度規則施行規定により指導医の選定申請（春季は定期学術集会に参加しなかった場合のみ）及び更新申請、外科専門医の更新申請、認定登録医登録及び更新（10単位）の際の研究実績に加算することができる。また、新専門医制度の外科専門医移行（更新）と外科領域講習にも対応したセミナーとしている。

2. ビデオライブラリーについて（資料1）

平成20年度より、「標準手術シリーズ（映像による私の手術手技）」と「定期学術集会のビデオ演題から10演題程度を選定する最新手術シリーズ」に分けることとし、令和6年度の標準手術シリーズは従来通り5名を選定、最新手術シリーズは第124回定期学術集会のビデオ演題から11名を選定した（91頁）、それぞれ制作補助費を支給した。

令和6年度は、販売作品398本（うち、特別ビデオセッション2010：4本、2012：4本、2015：3本、計11本）のDVDを1本5,500円（うち、特別ビデオセッション2010：1本11,000円、2012・2015：1本7,700円）で有料頒布し、11本の申し込みがあった。

また、販売用マスターデータ（DVD）と長期保存を見据えたデータ管理（ハードディスク）の2種類の方法で管理・保存を行っている。

なお、令和7年度の標準手術シリーズも従来通りに5名を選定（資料1）し、最新手術シリーズは令和6年度をもって終了とした。

（資料1）

映像による私の手術手技

標準手術シリーズ

（第125回定期学術集会で発表）

- 1) 高度進行胃癌に対する薬物療法後の腹腔鏡下 conversion 胃切除術
神戸大学大学院食道胃腸外科学 掛地 吉弘
- 2) 直腸癌に対するロボット支援下直腸低位前方切除術
大分大学医学部消化器・小児外科 猪股 雅史
- 3) 門脈腫瘍栓を伴う肝細胞癌に対する集学的治療戦略とプロジェクションマッピングを用いた最新の手術
京都大学大学院肝胆膵・移植外科学 波多野悦朗
- 4) 脊髄保護と脳保護に主眼を置いた慢性解離性胸腹部大動脈人工血管置換術
東北大学大学院心臓血管外科学 齋木 佳克

- 5) サバイバーシップに配慮した乳癌手術—乳頭温存乳房切除後の即時神経再生術と乳癌腋窩郭清術後同時リンパ管静脈吻合術

ハワイ大学外科/がんセンター 山内 英子

3. U-40 ワーキンググループの活動について

令和4～5年度にかけて教育委員会内に時限的かつ試行的に設置されたU-40ワーキンググループ（以下、U-40）は、①「本邦における外科研修の現状と課題：全国アンケート調査」と、②「領域毎の教育資材（いわゆるスキマビデオ）の作成」の2点を中心に活動した。この教育委員会内のU-40は活動が終了となり、発展的解散とした。

- ①令和4年度の外科専門医試験合格者を対象にアンケート調査「本邦における外科研修の現状と課題」を実施し、その結果をまとめた論文が「Surgery Today」に掲載された。

オープンアクセスで閲覧可

〈SPRINGER LINK ; Surgery Today〉

<https://link.springer.com/article/10.1007/s00595-024-02884-0>

〈論文名〉

Current status of the surgical training system in Japan: results of a nationwide questionnaire survey of graduating surgical trainees

- ②約4分～10分の領域毎の教育資材（いわゆるスキマビデオ）を作成し、それぞれ以下のリンクより視聴可能なので、活用いただきたい。

《上部消化管/下部消化管外科領域①》「ビルロートI法（デルタ吻合）術者は右立ち、助手は左立ち」（画像なし；音声あり）

《上部消化管/下部消化管外科領域②》「ビルロートI法（デルタ吻合）術者は右立ち、助手は左立ち」（画像あり；音声あり）

《肝胆膵外科①》「肝切除」（音声あり）

《肝胆膵外科②》「肝右葉脱転手技」（音声あり）

《肝胆膵外科③》「kocherization（kocher授動術）」（音声なし）

《肝胆膵外科④》「膵切除」（音声なし）

《心臓血管外科》「大腿動脈露出」（音声なし）

《呼吸器外科》「胸腔ドレナージの基本・ドレーン管理」（音声あり）

《乳腺・内分泌外科①》「乳腺外科の手術に初めて入るあなたへ 手術の基本ポイント～乳房切除術＋センチネルリンパ節生検～」（音声あり）

《乳腺・内分泌外科②》「甲状腺腫瘍の基本と発見時の対応」（音声あり）

《乳腺・内分泌外科③》「CT撮影で偶然に乳房内に所見を指摘された場合の対応」（音声あり）

《小児外科》「Inguinal Hernia 鼠径ヘルニア」（音声あり）

《外傷・救急外科》「Open abdominal management」（音声あり）

4. 周知協力について

- 1) ATOM コース（Advanced Trauma Operative Management）について

本会が受講者募集案内に協力しているATOMコースは、これまで「九州大学コース」「大阪公立病院コース」「自治医科大学コース」「東北大学コース」「北海道大学コース」「帝京大学コース」の6つのコースを開催している。

令和6年度も各コースの周知に協力した。

2) ASSET (Advanced Surgical Skills for Exposure in Trauma) コースについて

本会ホームページにて、外傷研修コースの一つである ASSET (Advanced Surgical Skills for Exposure in Trauma) コースの周知に協力している。

3. 専門医制度委員会

委員長 江口 英利

1. 新制度における外科領域専門研修プログラムについて、令和6(2024)年度は5月10日をメ切として申請を受け付けたところ、前年度に承認した246プログラムの他、新たに9プログラムから申請があった(計255プログラム)。6月5日付にて持ち回り形式で委員会を開催し、過去の基準に合わせて慎重かつ公正に審議を行った結果、全255プログラムを一次審査合格と判定し、理事会の承認を経た上で、日本専門医機構の二次審査に申し送った。
なお、令和7(2025)年度についても5月上旬をメ切として申請受付を予定している。
2. 日本専門医機構のWebシステムで、令和7(2025)年4月より新制度における研修を開始する専攻医の一次登録が11月1日から11月15日に行われ、二次登録が12月2日から12月13日に行われた。その結果、外科領域は一次登録にて787名の応募者のうち781名が採用され、二次登録では63名の応募者のうち60名が採用された。年明け1月からは採用が決定していない専攻医に関する最終の受付が行われ、866名が採用されるとともに、研修開始前に3名が採用を辞退したため、最終的な採用者は863名となった。専攻医登録の結果を分析したところ、本年は東京都や福岡県といった大都市において採用数が増加し、前年比56名の増加となった。また、地域によっては専攻医の応募数が継続して少なく、偏在も見受けられる。なお、令和4(2022)年4月から専門研修を開始した専攻医846名のうち33名が、令和5(2023)年4月から専門研修を開始した専攻医835名のうち27名が、令和6(2024)年4月から専門研修を開始した専攻医807名のうち16名が、既に他の基本領域へ異動している。
3. 日本専門医機構において、令和2(2020)年度より、医学研究に従事することを中心とした上で専門医の取得を目指す「臨床研究医コース」の専攻医募集が開始されたことから、同コースの設置を希望する研修プログラムを募集したところ、本年度は1施設から申請が行われた。申請内容について確認の上、日本専門医機構へ答申し、専攻医の募集が行われたが、本年度の応募者数は0名であった。
4. 専門研修の進捗を適宜確認するため、NCDの協力の下、外科領域として独自にWebシステム(研修実績管理システム)を構築しており、専攻医は自身が経験症例数、研修履歴、学会/論文発表などの学術活動に関する事項の登録が可能であると共に、到達目標や経験目標といった当該の研修施設における研修の評価を、専攻医と指導医の双方が登録している。現在の研修状況について、定期的に確認を依頼している。
5. 平成30(2018)年9月の医師法の改正に伴い、専門医制度に対して厚生労働大臣などが意見を述べるができるようになり、本学会にも例年、各種意見や要請が到着している。ただし、令和6(2024)年度においては、意見や要請は成されなかった。
6. 新制度の専門研修は原則としてプログラム制となるが、特段の事情(義務年限、出産・育児、介護等)により、プログラム制での研修継続が難しい場合について、厚生労働大臣からの要請に基づきカリキュラム制への移行が可能である。また、既にいずれかの基盤学会の日本専門医機構認定の新専門医を取得後、2つ目の基盤学会専門医の取得を目指す医師(いわゆるダブルボード)においてもカリキュラ

ム制の研修が可能とされている。個々の事情により相談を受けた専攻医について、個別に配慮を行った（カリキュラム制により研修中の専攻医数：43名（令和7（2025）年1月末現在））。

7. 「資格の広告」について、厚生労働省医政局より、1) 学会認定の専門医は令和11（2029）年3月31日までに当該団体の専門医資格を取得または更新した医師については、当該取得又は更新による認定期間の開始日から起算して5年間に限り広告可能とする経過措置を設けること、2) 令和11（2029）年4月1日以降に当該資格に新たに認定された医師（取得又は更新した医師）は、広告可能ではなくなり、新専門医へ一本化すること、が通知されたため、同方針をホームページで公開すると共に、メールニュース等で周知を行った。
8. 外科専門医を新規で取得する若手医師においては、平成30（2018）年から新制度の専門研修が開始され、既に新制度の認定者が誕生している。同認定者は、5年後には新制度の外科専門医更新が必要となるため、その初回の更新手続きが行われる令和8（2026）年に向けて、受け付けの準備を進めた。また、令和8（2026）年においては、新制度の認定者の他、学会認定の外科専門医（22,457名）についても、新専門医へ移行するか、学会専門医として更新するか選択制とすることで受け付けを開始する方針である。併せて準備を進めると共に、ホームページへの掲載やメールニュース等で周知を行った。

なお、日本専門医機構からは、新制度の外科専門医更新及び学会専門医から新専門医への移行に際し、「外科総論に関するテスト形式の受講」を求められているため、日本専門医機構との交渉を踏まえ、「外科総論に関するeラーニング」の構築を進めると共に、令和5（2023）年10月の「専門医の認定・更新に関する補足説明」の一部改訂に伴う「3回以上専門医を更新した場合の診療実績の免除」の要件撤廃についても、日本専門医機構から求められた「一定の診療実績の提出」について改めて検討し、「手術手技動画（数問のeテストを含む）」を受講することで代替する方針について、日本専門医機構から了承を得た。

9. 日本専門医機構の指示により設置された「外科サブスペシャルティ領域連絡協議会」において、外科6領域のサブスペシャルティと情報を共有し、新制度の「連動更新」の他、同6領域における学会専門医から新専門医への移行についても協議を進めた。
10. 既に日本専門医機構の認定を得ている一部の内科系サブスペシャルティから、自身の領域を構成する基盤領域となることを希望する照会を受けた。こちらは、外科医がキャリアパスの観点からも取得を可能とする道筋を設けることは有意義と考えられるため、これまでの対応に倣い、既に日本専門医機構の承認を得ている内科系サブスペシャルティからの要請に限り、了承した。
11. 新制度における筆記試験を令和6（2024）年8月25日（日）に都道府県毎に会場を設置し、会場内の端末を使用したCBT（Computer Based Testing）方式により実施した。このうち、日本専門医機構からは、これまでの対応に倣い、令和3（2021）年に専門研修を開始した専攻医についても、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い専門研修へ影響が生じた場合は、基盤学会として配慮を行うこと」について了承を得たため、どのような配慮を行うべきかについて慎重に検討の上、前年と同様に、外科領域の専門研修は3年間であるが、3年間の経過時に要件を充足していない場合は、専攻医及び自身が所属するプログラム統括責任者からの申告を求めた上で研修を「仮修了」扱いとし、令和6（2024）年8月25日実施予定の新制度筆記試験については「どのような要件を充たさなかったかの制限なく」全専攻医の受験を認めると共に、「仮修了」とした専攻医については、基盤学会として要件の充足を確認した上で日本専門医機構へ答申する責任があることから、令和6（2024）年3月から満1年間の経過後、個別の研修結果の提出を求めた上で日本専門医機構へ答申することとした。

なお、令和7（2025）年3月をもって専門研修を修了する専攻医についても、本会としては過去4年

間と同様に新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い専門研修に影響が生じていたものと認識しているため、同様の配慮を行うことについて日本専門医機構へ方針を照会し、了承を得たため、過去4年間と同様に、3年間の経過時に要件を充足していない場合も、研修を「仮修了」扱いとし、令和7(2025)年度の新制度筆記試験の受験を認めると共に、満1年間の経過後、個別の研修結果の提出を求めた上で日本専門医機構へ答申することとした。

令和7(2025)年度新制度筆記試験は、8月24日(日)に都道府県毎に会場を設置し、会場内の端末を使用したCBT(Computer Based Testing)方式により実施予定である。

12. 外科専門医の取得を目指す専攻医において、外傷領域の研修は「点数制(必要点数:10点)」となり、手術経験(NCDへの登録が必須)の他、本会指定の講習会受講も算定される。一般社団法人SSTT運営協議会及び第86回日本臨床外科学会学術集会会長より、外傷領域の講習会新設(外傷外科トレーニング ライブセミナー)の要望があったため、審議の上、2点の講習会として認定した。
13. 日本外科学会外科専門医制度規則及び同施行規定並びに専門制度委員会内規の変更について、定款委員会の変更案について確認の上、答申した。
14. 外科系関連学会が新制度の共通講習/外科領域講習を開催する場合には、本学会がとりまとめて日本専門医機構に報告を行っている。例年に倣い、構築済みのオンラインシステムを介して、構築各学会からの申請を受け付けした。また、外科領域講習については、第124回総会にて複数の講習会を開催すると共に、第125回総会においても開催を予定している。
15. 本委員会の下部の「外傷小委員会」(小委員長は溝端康光代議員)において、E-learningで配信中の「外傷講習会」のうち、「コース3:手術手技」の最新版を7月から配信した。今後は、残る2コース(コース1:ダメージコントロール、コース2:治療戦略)についても1年毎に更新を行い、3年周期で各コースの最新版を配信予定である。
16. その他、前例に倣って各種の問合せに対応した。

1) 外科関連専門医制度委員会

委員長 北 川 雄 光

日本専門医機構におけるサブスペシャリティ領域の各種対応について、日本専門医機構指示の許で設置された「外科サブスペシャリティ領域連絡協議会」において検討を行った。

(→内容は専門医制度委員会報告をご覧ください)

2) 一般社団法人日本専門医機構

社員代表 武 富 紹 信

1. 令和6(2024)年6月から10月にかけて、各基本領域の一次審査を終了した専門研修プログラムの二次審査が行われた。審査にあたっては、各都道府県に設置された協議会との調整も行われ、地域医療へ可能な限り配慮された。
2. 平成30(2018)年9月の医師法の改正に伴い、専門医制度に対して厚生労働大臣などが意見を述べるができるようになり、医道審議会に医師専門研修部会が設置された。そこでの検討内容を受けて、専攻医募集における適正なシーリングの在り方や、サブスペシャリティ領域の認定の在り方などにつ

いて継続的に審議中である。

3. 令和7（2025）年4月より新制度における研修を開始する専攻医については、11月1日から11月15日にかけて一次登録、12月2日から12月13日にかけて二次登録、年明け1月7日から1月22日にかけて最終調整が、Webシステムを介して行われた。また、都道府県別のシーリングについては、令和元（2019）年の専攻医登録より厚生労働省が試算した必要医師数を基に、医師の「地域の偏在」、 「診療科の偏在」、 「働き方改革」の3つが連動した考え方によるシーリングが実施されているが、専攻医の採用数の少ない都道府県を加えて構築した連携プログラムの設置や、地域枠医師の採用に関する対応等の改善を引き続き試みた。なお、診療科について、外科、産婦人科、病理、臨床検査、救急、総合診療領域はシーリングの対象から外れている。
4. 基盤領域におけるプログラム制専門研修整備基準及びカリキュラム制専門研修整備基準及び新専門医更新基準について、ホームページでの公開を行った。

4. 専門医認定委員会/予備試験委員会

委員長 江 畑 智 希

1. 令和6年度外科専門医試験（新制度：筆記試験、旧制度：予備試験）について

令和6（2024）年度は、1）旧制度において予備試験を申請した19名の他、2）令和6（2024）年3月をもって新制度の専門研修を修了し、申請を行った専攻医719名（加えて、研修要件が未達であったものの、日本専門医機構からの要請により、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う専門研修への配慮として、研修を「仮修了」扱いとして特別に新制度試験の受験を認め、申請を行った専攻医161名）について、各都道府県に会場を設置し、同会場でCBT（Computer Based Testing）方式による予備試験（筆記試験、第18回目）、新制度筆記試験（第3回）を8月25日（日）に実施した。

9月4日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果（外科専門医制度の外科専門医に関する施行規定第10条第1項により、公開しない）、それぞれについて1）12名、2）865名を合格と判定した。合格者氏名は、申請者数、受験者数、不合格者数、合格率とともにホームページ内会員専用ページに公表した。

2. 令和6年度認定試験（面接試験）について

前年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響から集合形式での開催が難しいことや、受験生の負担も考慮し、試験の代替として、受験を許可した外科専門医制度修練施設（指定施設）の指導責任者から証明書の提出を求めることで対応した。第17回目の外科専門医認定試験について、申請者は46名であり、同申請者の指導責任者へ証明書の提出を求め、11月5日付文書で持ち回りにより委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果（外科専門医制度の外科専門医に関する施行規定第35条第1項により、公開しない）、本年度は46名全員を合格と判定した。合格者氏名は、申請者数、受験者数とともにホームページ内の会員専用ページに公表した。

3. 令和6年度外科専門医更新認定業務について

本年度の対象者は有効期限が令和6（2024）年12月31日までの外科専門医5,174名であった。対象者のうち、4,736名から申請があり、その内訳は、①通常に更新する者：2,155名、②サブスペシャリティ外科専門医の有効期限が来年度以降のため期限を延長する者：659名、③サブスペシャリティ外科専門医の有

効期限も本年度のため同時更新する者：1,677名、④認定登録医に移行する者：245名であった。

令和6年11月5日付文書で持ち回りにより委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、①については2,155名を合格と判定し、④については所定の書類提出が得られなかった2名を除く243名を合格と判定した。③については、サブスペシャリティ領域において新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う配慮として、特例により研修期間の延長措置を講じた領域があったことから、対象となる89名と、各学会の更新審査の結果、不合格またはサブスペシャリティ外科専門医の更新手続きを行っていなかった11名の計100名を除いた1,577名を合格と判定した。また、延長が講じられた89名は②へ移行し、748名に外科専門医認定証の有効期限の延長を示すシールを発行した。なお、不合格またはサブスペシャリティ外科専門医の更新手続きを行っていなかった11名のうち、4名は改めて①の通常の手続きを行い、6名は改めて④の通常の手続きを行い、条件の充足が確認できたので、それぞれについて全員を合格と判定した。したがって、①については最終的に2,159名を合格とし、④については最終的に249名を合格とした。なお、1名については外科専門医の更新を希望しなかった。

本年度合格者氏名は、ホームページ内の会員専用ページに公表した。

4. 令和6年度外科専門医特例更新業務について

当該年度に更新することができず外科専門医を失効した場合、資格失効後1年以内に条件を充足できれば外科専門医の再取得もしくは認定登録医の登録が可能である。

本年度の対象者は令和5(2023)年度に失効した416名であり、対象者のうち①58名から外科専門医の再取得、②19名から認定登録医の登録の申請があった。

11月5日付文書で持ち回りにより委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、外科専門医58名、認定登録医19名全員の特例更新を認めた。

本年度合格者氏名は、ホームページ内の会員専用ページに公表した。

5. 令和6年度外科専門医移行認定業務について

外科専門医制度規則第12条により、直近5年間に100例以上の手術実績を充足した認定登録医は外科専門医への移行申請を行うことができる。

本年度に申請を行った者は22名であり、11月5日付文書で持ち回りにより委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、22名全員の移行を認めた。

本年度合格者氏名は、ホームページ内の会員専用ページに公表した。

6. 令和6年度認定登録医更新業務について

本年度の対象者は有効期限が令和6(2024)年12月31日までの509名であり、対象者のうち、354名からの申請があったが、そのうち1名がオンラインによる申請登録は行ったが、申請書そのものを提出しなかった。したがって、審査対象者は353名であった。

11月5日付文書で持ち回りにより委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、353名全員の更新を認めた。

本年度合格者氏名は、ホームページ内の会員専用ページに公表した。

7. 令和6年度認定登録医特例更新について

当該年度に更新することができず認定登録医を失効した場合、資格失効後1年以内に条件を充足できれば認定登録医の再登録が可能である。

本年度の対象者は令和5（2023）年度に失効した168名であり、対象者のうち26名から認定登録医の再登録の申請があった。

11月5日付文書で持ち回りにより委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、26名全員の特例更新を認めた。

本年度合格者氏名は、ホームページ内の会員専用ページに公表した。

8. 日程について

今年の日程、および会場は以下のとおりである。

・外科専門医試験（新制度：筆記試験、旧制度：予備試験）

…日時：8月24日（日）13時～16時

会場：都道府県別に会場を設置（昨年と同じ、CBT形式による実施を予定）

5. 指定施設指定委員会/指導医選定委員会

委員長 原 尚 人

1. 令和6年度指定施設指定業務について

本年度も7月中旬にホームページやメールニュース、個別の案内メールを通じ、指定施設および関連施設の申請手続きを行うように、オンラインを介して通知した。また、指定期間中の指定施設に対しては、同様にオンラインを介して年次報告を行うように通知した。9月2日に申請を締め切ったところ、指定施設として130施設、関連施設として952施設の申請があった。

所定の手続きを経て、11月7日付文書で持ち回り委員会を開催し、指定施設基準に準拠して慎重かつ公正に審議を行ったところ、関連施設として申請されたが条件を満たさなかった3施設を不可と判定した。結果、指定施設として130施設、関連施設として949施設を指定した。なお、平成27（2015）年までに医籍登録を行った医師を対象とした旧専門医制度は令和8（2026）年をもって終了することに伴い、昨年の決議を踏まえて、指定施設および関連施設の申請受付は令和6年度を以て終了となる。その対応として、指定施設は「令和7（2025）年1月1日～令和9（2027）年12月31日（3年間）」の指定期間であるところを、「令和7（2025）年1月1日～令和8（2026）年12月31日（2年間）」の指定期間へ短縮すると共に、関連施設は「令和7（2025）年1月1日～令和7（2025）年12月31日（1年間）」の指定期間を「令和7（2025）年1月1日～令和8（2026）年12月31日（2年間）」へ延長することとした。加えて、指定期間が令和7年12月31日までの指定施設については、現行の指定期間を1年間延長することで、指定期間を統一することとした。この結果は理事会で決議されたので、ホームページ内の指定・関連施設一覧を更新し、それぞれ外科専門医制度修練施設証、外科専門医制度関連施設証を交付して、各施設長宛に送付した。

したがって、現指定施設数1,170施設、現関連施設数949施設である（2025年1月末日現在）。

また、指定を受けていない施設は、指導医および修練医の在籍がある場合に限り、年度の途中から指定を受けるための関連施設の仮指定申請を行うことができる。本年度は1施設から申請があった。仮指定の申請を行った施設は実績報告書の提出を以て本指定となるため、1月17日を期限として実績報告書の受付を行った結果、当該の1施設について全ての条件を充足していたため、仮指定期間をそのまま本指定とした。

2. 令和6年度指導医選定業務について

本年度は、2月下旬から指導医の申請受付を行った。5月31日に申請を締め切ったところ、406名からの申請があった。このうち、事前に申請を取り下げた者が11名であったため、したがって審査対象者は395名であった。

所定の手続きを経て、8月29日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、業績の条件を満たしていなかった1名を不合格とし、394名を合格と判定した。この結果は理事会で決議されたので、合格者氏名はホームページ内会員専用ページに公表した。

3. 令和6年度指導医更新選定業務について

例年通り取得から5年が経過した指導医の更新選定業務を行った。本年度の対象者は令和元年に新規選定により取得、または更新選定により取得した1,638名であった。選定申請と同じく5月31日に申請を締め切ったところ、1,264名からの申請があった。このうち、所定の申請書を提出しなかった者は1名、事前に申請を取り下げた者が8名であったため、したがって審査対象者は1,255名であった。所定の手続きを経て、8月29日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、業績の条件を満たしていなかった2名を不合格とし、1,253名を合格と判定した。この結果は理事会で決議されたので、合格者氏名はホームページ内会員専用ページに公表した。

4. 令和6年度指導医再選定業務について

申請資格を満たせず更新が行えなくても、失効後2年以内に更新条件を充足できれば再選定を認めることとしている。

本年度の対象者は444名（令和4（2022）年度：184名、令和5（2023）年度：260名）であり、所定の申請書でのみ申請を受け付けた。選定申請および更新申請同様に5月31日に申請を締め切った結果、32名からの申請があった。所定の手続きを経て、8月29日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、32名を合格と判定した。この結果は理事会で決議されたので、合格者氏名はホームページ内会員専用ページに公表した。

5. 旧専門医制度の終了に伴う指導医の運用について

旧専門医制度は令和8（2026）年度の外科専門医認定試験を以て終了し、以降は新専門医制度へ一本化されることが決定している。昨年の決議にて、指導医の新規申請の「勤務施設」について、「旧専門医制度における指定施設/関連施設において通算10年間の勤務（うち3年間は指定施設の勤務が必須）」の要件を新専門医制度に合わせて変更し、「1）旧専門医制度における指定施設/関連施設、2）新専門医制度における基幹施設/連携施設において通算10年間の勤務が必要（うち3年間は指定施設若しくは基幹施設の勤務が必須）」とした。ただし、従来は修練医を指導することを主眼に研修施設となる指定施設/関連施設への勤務を要件としていたものの、令和8（2026）年度の旧制度終了に伴い、直接的な役割までは求められないこととなるため、各施設における通算10年間の勤務を求める要件は撤廃し、申請施設の責任者からの勤務証明書の提出も不要とした。

なお、指導医の新規申請における各種実績の算定期間については、外科専門医または認定医（終身有効資格）を取得後、最低10年以上の経験を求めていたが、外科医のキャリアパスへの配慮から、認定登録医であった期間中の実績も算定を認めると共に、認定医については外科専門医制度が開始される以前の資格となり、本会会員である限り終身有効な資格とされているため、算定期間から除くこととした。

本規則変更については、理事会へ申し送ることとした。

6. 医学用語委員会

委員長 井 本 滋

1. 「外科学用語集」について

平成15年5月に、過去発刊してきた「外科的手術用語集」「外科的疾患用語集」「外科略語集」を1冊にまとめ「外科学用語集」を発刊しており、収録された用語数は英和約7,800語、和英約8,500語、略語約1,600語であり、産婦人科、整形外科、形成外科など周辺領域の用語も取り入れた。その後、Web版も作成し、本会ホームページ上で公開している。

2. 「外科学用語集」のWeb版の改訂作業について

平成25～26年に掛けて、本会ホームページ上で広く会員から改訂のための意見を公募し、本委員会で意見集約やチェックなどを行い、平成27年4月より、「外科学用語集」のWeb版に反映した。そのWeb版の利用状況は、令和6年2月～令和7年1月で11,752件のアクセスであった。

また、「外科学用語集」のWeb版のブラッシュアップなどを目的に、令和5年7月より、前回と同様の方法で会員や外科系の学会から意見募集を行った。その結果を本委員会で意見集約やチェックなどを行い、令和7年4月より、「外科学用語集」のWeb版に反映した。

- ・投稿応募にあたって数回既報
- ・新規用語の追加の投稿 全161件
採用 → 106件（うち5語は、委員会内で提案があり採用した）
不採用 → 54件
- ・掲載用語の表記修正の投稿 全55件
採用 → 44件（うち6語は、新規用語から移動して採用した）
不採用 → 11件

3. 日本医学用語辞典について

本委員会では、日本医学会より発刊されている「日本医学用語辞典」の編集にも関与し、要請に応じて用語のチェックも行っている。

4. 日本医学会の医学用語管理委員会について

日本医学会の「Web版医学用語辞典」にて、『優生/劣性』に代わって、『顕性/潜性』への置き換えが完了した。その他の遺伝学用語、用語の表記法、不適切語を含む医学用語についても議論が進められている。

5. 「ICD-11」の確認・修正作業について

厚生労働省より、「ICD-11」の“外科領域”に関係する用語の確認・修正作業が依頼され、本委員会で対応した。

7. eラーニング委員会

委員長 亀井 尚

1. eラーニングについて

本会のeラーニングは、平成31/令和元（2019）年より製品化されたシステムを使用してコンテンツの配信を開始したが、その後、ユーザーである会員への利便性の向上などの観点から、本会独自のeラーニングシステムの構築を行い、（株）Jストリームにシステム開発を委託し、令和5（2023）年2月より新たにリニューアルし配信を行っている。

2. eラーニングシステムへの他学会共同利用の受け入れについて

本システムを独自で開発するにあたり、あらかじめ他学会より相乗りの要望を受けていたことから、外科系のサブスペシャルティ学会（事務局）に対してシステムの共同利用に関する説明を行い、「日本小児外科学会」から利用希望の回答をいただいた。

このことから、他学会共同利用に関して具体的な調整を進めている。

なお、この受け入れに関するシステムの基本開発部分は本会が負担した上で、希望学会数に関わらず、1学会あたり一律50万円（税別）を負担してもらって改修し、さらに基本開発以外に個別の開発要望がある場合には、各希望学会に実費を請求するという方針とした。

3. eラーニングコンテンツの価格の見直しについて

eラーニングの配信を開始して5年が経過し、これまで共通講習と領域講習を合わせて21コンテンツを配信しているが、日本専門医機構による新制度更新申請要件の変更に伴い、共通講習や領域講習の必要単位取得数が引き上げられたことから、本会としてもさらに領域講習の配信コンテンツを増やす必要があり、受講者の費用的な負担も踏まえて、本会eラーニングでは現在のところ安定的な収益が見込まれていること、また、外科系のサブスペシャルティ学会からは「5,500円（税込）」という受講料が高いため、システムの共同利用が難しいとの意見もあったことから、コンテンツの価格設定見直しを念頭に、『①コンテンツの価格の見直しについて』と、『②「外科総論」のセット販売について』の2点を検討した。

①コンテンツの価格の見直しについて

検討の材料として、令和6（2024）年度の収支から固定費と変動費を算出し、またそれらを基に損益分岐点売上高を試算した。さらに令和7（2025）年度以降は、「外科総論」に関するeラーニングが新専門医への移行に際し必須化されているため、受講者総数は大幅な増加が見込まれることや、他学会の受講料等を踏まえて検討した結果、会員は1コンテンツあたり「3,300円（税込）」に引き下げて設定することとした。また、非会員の1コンテンツあたりの受講料についても検討し、本会のeラーニングは会員のためのものであり、eラーニングの費用も会費などから賄われていることから、会員の受講料とは差別化して、非会員は1コンテンツあたり「11,000円（税込）」の据え置きとすることとした。

なお、会員の1コンテンツあたりの受講料の引き下げは、令和7（2025）年6月以降を予定している。

②「外科総論」のセット販売について

令和7（2025）年度に「外科総論」のコンテンツとして5コンテンツ（1コンテンツあたり30分×2演者の60分）を制作することが理事会で決定された。従来であれば1コンテンツ毎の販売となるが、受講者の費用的な負担を考慮して、5コンテンツを1セットにして販売いただけないかとの要望も、専門医制度

委員会から挙げられた。検討の材料として、本件も令和6(2024)年度の収支から固定費と「外科総論」のみの場合の変動費を算出し、新コンテンツ価格の「3,300円」の損益分岐点売上高を試算した。この損益分岐点売上高を基に、新制度外科専門医認定者の1学年あたり約1,000名×5年分の計5,000名の受講予定者数を目標利益プラマイゼロとして割った場合に、「9,900円(税込;1,980円×5)」と、セット販売(5単位分)することが可能と試算された。

検討した結果、こちらも令和7(2025)年度以降は「外科総論(5単位)」が必須単位となることから、受講者が大幅に増える見込みであるため、「9,900円(税込)」のセット販売(5単位分)と設定することとした。

4. eラーニングのサービス向上におけるシステム改修について

①クレジットカード決済時のセキュリティ強化に伴う認証サービスの導入について

オンラインショッピング時などにクレジットカード番号の情報盗用による不正利用を防ぎ、安全にクレジットカード決済を行うための本人認証サービスである「EMV 3-D セキュア(3D セキュア 2.0)」の導入におけるシステム改修について、令和7(2025)年3月までには、全電子商取引加盟店は法対応として実施が必須となっていることから、本会の会計年度にあわせて令和7(2025)年2月から導入した。

②非会員がコンテンツを購入する際に指定したコンテンツを購入不可とする限定購入改修について

本会のeラーニングは、共通講習の配信をメインにスタートしたため、本会会員以外(非医師を含む)でも非会員としてアカウント登録を行えばコンテンツを購入できるような仕様となっている。この仕様について、本会内からは、今後は領域講習を増やしていく上で、本会会員以外(非医師を含む)にはあまり見せるべきでない動画が含まれた場合の制限を設けるべきではないかとの意見が挙げられた。また、現在システムの共同利用を希望されている「日本小児外科学会」からも、小児系の手術動画であり非医師には見せるべきではないコンテンツも作成する予定であるとの意見も挙げられたことから、非会員の購入制限をかけることができるように改修を行うこととした。

5. eラーニングのコンテンツについて

日本専門医機構のeラーニングの規定に沿った専門医共通講習/領域講習のコンテンツを制作し、順次配信している。

令和6(2024)年度は、2コンテンツを新たに配信した。これにより、現在21コンテンツを配信している。

また、令和7(2025)年1月31日までのコンテンツの購入者数は資料1のとおりである。

なお、コンテンツが増えて充足し、また、日本専門医機構でも共通講習のeラーニングが多く配信されていることから、毎年一定数のコンテンツを制作するのではなく、共通講習の「医療安全」「医療倫理」「感染対策」のいずれかは1年に1回、最新を配信することとした上で、その他は各委員会が希望するコンテンツを柔軟に制作する方針としている。

令和7(2025)年度においては、「外科総論」の他に、教育委員会から「教育セミナー」のコンテンツ制作の依頼があり、教育委員会と連携して対応していくこととした。

資料 1

eラーニングにおけるコンテンツの購入者数

No.	講座ID	共通/領域	コンテンツ名 (配信順)	配信開始日	配信状況	種別	2025年1月31日現在					
							2019年度 (2019.2.1~ 2020.1.31)	2020年度 (2020.2.1~ 2021.1.31)	2021年度 (2021.2.1~ 2022.1.31)	2022年度 (2022.2.1~ 2023.1.31)	2023年度 (2023.2.1~ 2024.1.31)	2024年度 (2024.2.1~ 2025.1.31)
1	1967	共通講習 (医療安全)	医療安全講習会 (提言第1号)	2019年4月	有料 (単位認定あり) 配信終了	会員 非会員	97 0	801 1	535 0	526 1	563 1	379 0
2	2484	外科領域	令和2年度外傷講習会コース1: ダメージコントロール	2020年6月	有料 (単位認定あり) 配信終了	会員 非会員	— —	658 1	400 1	185 0	0 0	— —
3	2486	外科領域	令和2年度外傷講習会コース2: 治療戦略	2020年6月	有料 (単位認定あり) 配信終了	会員 非会員	— —	576 1	357 1	289 0	284 10	— —
4	2487	外科領域	令和2年度外傷講習会コース3: 手術手技	2020年6月	有料 (単位認定あり) 配信終了	会員 非会員	— —	529 1	342 1	255 0	284 1	255 0
5	2533	共通 (医療倫理)	令和2年度医療倫理講習会	2020年8月	配信中	会員 非会員	— —	583 1	568 1	494 1	344 1	336 0
6	2539	共通 (感染対策)	令和2年度感染対策講習会	2020年10月	配信中	会員 非会員	— —	499 0	558 0	473 1	424 1	428 1
7	2559	外科領域	第97回卒業後教育セミナー (令和2年度)	2020年12月	配信中	会員 非会員	— —	217 0	286 0	89 0	127 1	146 0
8	2561	共通 (臨床研究・臨床試験)	第24回臨床研究セミナー (令和2年度)	2020年12月	配信中	会員 非会員	— —	56 0	79 0	19 0	32 1	37 0
9	2562	共通 (感染対策)	令和2年度感染対策講習会 (COVID-19)	2020年12月	配信中	会員 非会員	— —	56 0	90 0	44 0	77 1	69 0
10	2595	外科領域	第98回卒業後教育セミナー (令和3年度)	2021年10月	配信中	会員 非会員	— —	— 0	141 0	175 0	234 1	249 0
11	2612	共通 (医療倫理)	令和3年度医療倫理講習会	2021年11月	配信中	会員 非会員	— —	— 0	37 0	113 0	328 1	144 0
12	2616	共通 (臨床研究・臨床試験)	第25回臨床研究セミナー (令和3年度)	2021年12月	配信中	会員 非会員	— —	— 0	15 0	36 0	41 1	41 0
13	2625	外科領域	第99回卒業後教育セミナー (令和3年度)	2022年1月	配信中	会員 非会員	— —	— 0	43 0	343 0	303 1	290 0
14	2668	外科領域	令和3年度外傷講習会コース1: ダメージコントロール	2022年7月	配信中	会員 非会員	— —	— —	— 0	133 0	294 2	320 1
15	2729	共通 (感染対策)	令和4年度感染対策講習会	2022年9月	配信中	会員 非会員	— —	— —	— 0	85 0	306 1	244 0
16	2731	共通講習 (医療安全)	医療安全講習会 (提言第2号/第5号)	2023年4月	配信中	会員 非会員	— —	— —	— —	— 1	200 1	371 2
17	2732	外科領域	令和5年度外傷講習会コース2: 治療戦略	2023年7月	配信中	会員 非会員	— —	— —	— —	— 1	133 1	250 1
18	2734	共通 (臨床研究・臨床試験)	第26回臨床研究セミナー (令和5年度)	2023年8月	配信中	会員 非会員	— —	— —	— —	— 27	— 0	59 0
19	2735	共通 (医療倫理)	令和5年度医療倫理講習会	2023年9月	配信中	会員 非会員	— —	— —	— —	— 0	104 1	243 1
20	2758	外科領域	令和6年度外傷講習会コース3: 手術手技	2024年7月	配信中	会員 非会員	— —	— —	— —	— —	— —	127 0
21	2759	共通講習 (医療経済)	令和6年度医療経済講習会	2024年10月	配信中	会員 非会員	— —	— —	— —	— —	— —	28 0
							97	3,980	3,455	3,262	4,131	4,022